

小竹だより



開校60周年臨時号

練馬区立小竹小学校 校長 佐藤 正文

R2.8 No. 5 6 2

『小竹の植物』誌

校長 佐藤 正文

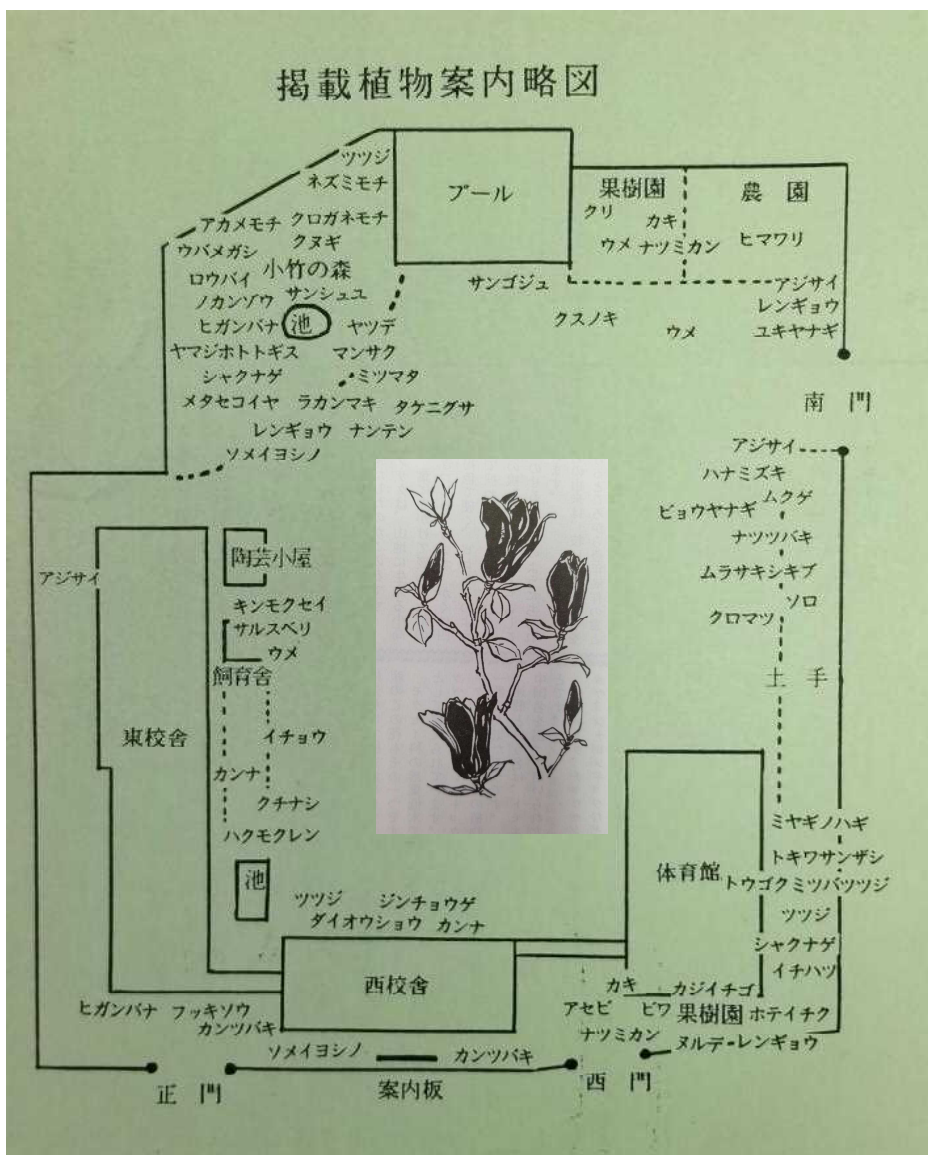


緑豊かな小竹小学校。小竹の森は、春夏秋冬景色を変化させていきます。植物の成長を身近に見ることができます。

この「小竹の植物」は、昭和62年（1987年）から5年間学校だよりに掲載された校庭に姿をみせる植物の記事を冊子としてまとめ

発行された記念誌です。執筆をされていた方々は、篠原智男校長先生、菊地二次男教頭先生、櫻井茂先生です。（当時）

今回は、冊子に寄せられた先生方の言葉を一部紹介させていただきます。



【第8代校長：篠原智男先生より】

「～子供たちも、森の中に池を作り、巣箱やえさ台などの設置、ボランティア活動の一環として学年の木を定め、年間を通じて観察・手入れなど自然に親しん

できました。こうした豊かな自然を保護者の方や地域の方々に知っていただくこと、昭和62年（1987年）、当時の檜山校長先生、菊地教頭先生、櫻井先生の努力によって、『小竹の植物』として、学校だよりの中での紹介が始まりました。～」

【第7代校長：檜山清之助先生より】

※掲載が始まった時の校長先生

「～”小竹の森”には、卒業生が汗を流した池が、緑の中に光っています。私は、全校生へ昭和61年に、**□**んきの木・ハナカイドウ。62年の**□**くましの木・グミ。63年は、**□**じめの木・ミツマタを贈り、**□**たけの子の立派な成長を祈りました。」

【前教頭：菊地二次男先生より】

「学校だよりに新風を吹きこみ、読み手が待ち遠しくなる物を作ってみようと、意気込んだ時がありました。学校の特色が表れ、数年間続いても新鮮な感じで読めるということで、頭を悩ませました。その結果、この『小竹の植物』という欄が生まれたのです。小竹の森ができ、多くの草木が植えられて間もない頃です。土手には名も知れぬ野草が、かれんな花をつけ始めた時期にこの植物シリーズが、誕生したのです。～」

【櫻井茂先生より】

「～三方が緑に囲まれた校庭の中から、どの植物を載せるか迷いました。そこで、四季折々に一番特徴の出る花の時季を選びました。紹介に当たっては、その植物の葉や茎の特徴、花や実の様子も主眼を置き、

正確さを期すために実物をスケッチした図を加えることにしました。また、その植物の校庭にある場所や、植物名の由来に触れることにより、実際に観察する手がかり



【記念誌のページ】

になると考えました。～」

連載が始まった昭和62年。練馬区の「緑豊かな練馬」の学校緑化事業が推進され、小竹小は、第一号の学校となりました。

当時の加藤裕美教頭先生は、冊子の「あとがき」で次のように記しています。

「～椿の花と共に誕生する冊子も、お目出度い記念誌といえるでしょう。椿の花はポトリと落ちる思いっきりのよさに感動する人もいます。椿の魅力は『落花の姿』にあると思います。この冊子の中に載っている木々にも、それぞれ魅力があるように思います。その魅力を見つけ、大切にしていきたいものです。

小さきは 小さく咲かん

人見るもよし 人見ざるもよし

我は 咲くなり

『小竹の植物』今の時代にその姿を見せてくれている花々木々。今を生きる子供たちも、自然から学び続けています。